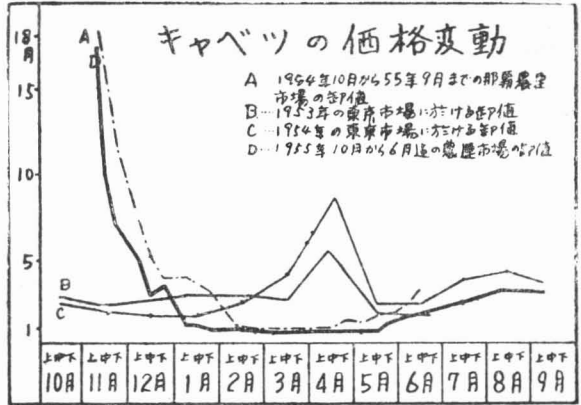


琉球大学学術リポジトリ

化繊の性質と用途

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 外間, 千代 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19592



二、かんらん 戦前戦後を通じて大根に次ぐ栽培面積をもち昭和十一年には卒業作付面積の九・八八パーセント、一九五三年には十一・八一パーセントである。一九五三年の栽培面積は大根に劣るが生産量は大根を卒業生産量の二六・一一パーセントに対してかんらんは一八・一六パーセントで大根をしのいで卒業第一位を占めている。

重要な卒業後に価格の変動最も激しく八、九月の輸入キャベツは二十五円以上にはね上り、十一月頃島内産が開始する頃迄千円以上を維持し、三、四月頃の最盛期には七、八十銭程度に下落する。

最近耐暑性の強い華探かんらんが導入された事によつて七月初旬播種して、十月からの収穫が可能となつた今日、その普及と共に十、十一月の異常な高値も幾分かは低下すると思われが十一月迄は毎年高値を維持し有利に売買出来る事には間違いない。

一月以降は輪田の道を開かない限り一円以上の価格を保持す

る事は出来ない。しからは輸出は可能であろうか。

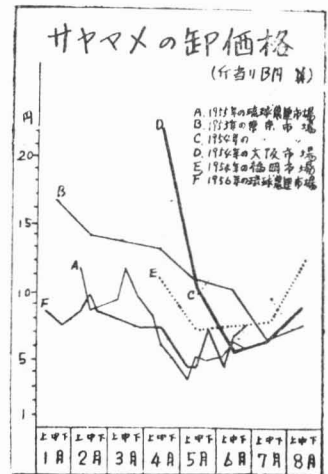
戦前は重要な輸産を業として毎年多量に東京、阪神市場に出荷された。しかるに戦後は一九五三年から初めて阪神市場に荷されたが成績はよくない。一九五三年の三月から五月にかけての総出荷額は六十六万担程度で、一九五四年度は三十二万担、今年は二十六万担程度である。毎年減少の一途を辿っており今後はどうであろうか。

普通かんらんは或る一定の大きさ以上に成長した時一定の低温以下に一二月以上置かれると抽苔するが、日本の気候条件下に於いては四月取りのかんらんは抽苔期と行致する関係上栽培不可能な状態にあつた。夏播が一二月、秋播は五月以降に収穫されるように栽培されてきたため、四月は特定な暖地への出荷となつて、油種から高値で有利に出荷されていた。

戦後の目覚ましい品種の改良と技術の向上によつて、夏播が一四月に秋播が四月から収穫可能となり完全に四月の穴を塞いでしまつた。図に示す通り、東京と油種の単収の隔きが非常に接近して来た。今後も絶え間ない品種の改良と技術の向上は益々両者の隔きを縮める事が予想されるので輸出の可能性もますますある。逆に七月一二月にかけて日本から相当量の甘藍が輸入されている。一九五四年には四万斤余、金額にして四三万担程度で、平均単価一〇、七二円で輸入され、小売値が十五乃至三十円程度で販売された。

化繊の性質と用途

最近スフ製品の需要は急に増し、これと共に化繊の名も多くの人々に親しまれてきました。化繊とは、化学繊維の略で天然繊維(羊毛・絹・木綿・麻など)に対して化学的方法で人工的に製造された繊維のことをいいます。化学繊維にはいろいろな種類があります。デパートお街の洋服店に行けばいろいろな



三、菜豆 サヤ豆用としてどれだけ栽培されているかは明らかでないが、食生活の向上、清浄蔬菜の出荷に刺戟されて、戦後栽培面積が増加した事は間違いない。さや豆は農産市場に十一月の中頃から出荷されているが実際は十月頃から収穫され、その中高価格を保持している。

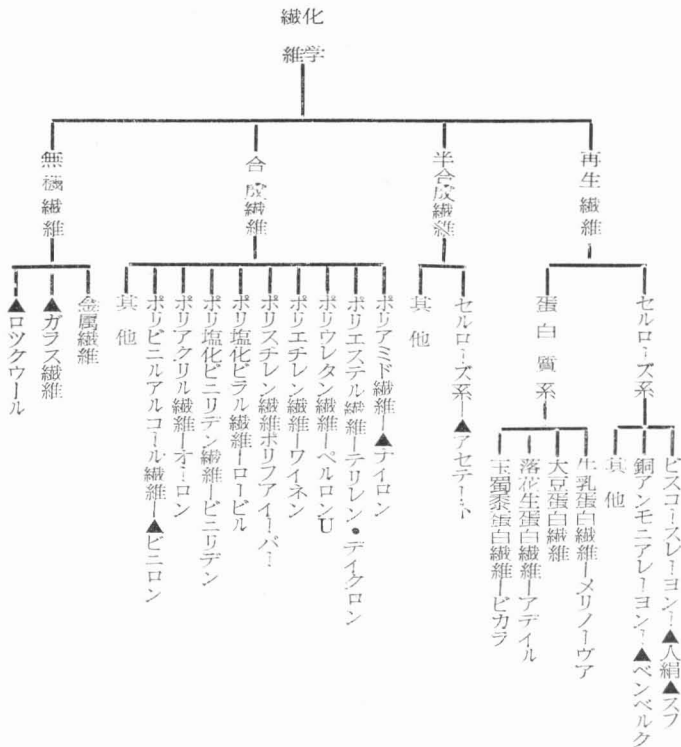
日本からの輸入は全くないが、戦前は日本へ輸出していた。今後も図に示されている通りの価格の差からして、東京、大阪市場への輸出は可能であろう。続く。

(本稿は本学部、今年度卒業の平安山良勝君の調査研究に依る。)

(友 寄 長 重)

もろうように努めていたがきたいものです。求めぬ側は化繊の性質を十分にわきまえて、用途に一番かなつたものを求めることが大切です。

化学繊維分類



第一表を参照して▲印に注意して下さい。それは現在日本で製造されていて衣料に使われているものです。

この他にビニリデン、ガラス繊維ロクソウールなども製造されていますが主として工業用です。半国産品を取扱つてゐる店先では、オーロンの生地やウールとテイクロン混紡のセーターをみかけることがあります。化繊は現在でも相当数の商品名を数え立てますが今後の研究発達によつてますますその種類の増加を見ることがあります。

現在絹織に輸入されている衣料の大部分が日本産品でありますので、では先にのべました五種の繊維についてのべることにします。

ビスコースレーヨン人絹、スフ

天然繊維の木綿羊毛はほとんど輸入に頼らねばならないのに反し、ビスコースレーヨンはその原料がほとんど日本国内で得られるので、今後の衣料として十分に關心を怠らねばならない繊維です。

原料 主として木材、棉花などから出来るパルプの中の繊維を人工的に再生してつくられたものです。

長繊維のものをビスコース・レーヨン（人絹）と呼び、短繊維に切つて紡績したものをスフといつています。人絹やスフは単独に用いられるばかりでなく、羊毛、木綿、麻ナイロン、ビニロン、アセテ

トなどの混紡、交織も行われて独自の風合いの織物ができています。

用途 婦人子供服、下着類、着尺物、作業服、男子服、裏地、夜草地、服飾品、室内装飾など広い範囲に役立てられています。製品 人絹織物は、クレープ、デシン、タフタ、サテン、クレープ、フジエツト、ボイル、ジョウゼツト、ピツケ、サツカイ、オーガンジー、オットマン、フアイユ、塩瀬、壁絨、御召、銘仙、別珍など。

撥縮（ケンシユク）スフ、縮物は、サージ、ギヤバジン、トロピカル、フラノ、モスリン、ネル、毛布、ボワリン、キング、タオル地、その他メリヤスなど。

特性 ①強さは乾いた時よりも湿ると弱いこと。従つて水中での洗濯には注意が大切です。②吸湿性は大きいこと。③酸、アルカリにはあまり強くないこと。④直接染料には染りやすいこと。⑤摩擦に対しては強くないこと。⑥出やカビの害はうけることもある。⑦皺がよしやすいこと。

ベンベルグ

ベンベルグはドイツではじめてその工業化に成功したもので日本では大正十一年に、アンモニオ合成に成功し、昭和六年に市場にはじめて姿をみせたのです。

原料 輸入のコットン・リントナー（綿の実についている短い繊維）をつかい、独特の方法で紡糸するのでビスコース人絹よりもはるかに細く、しかも強い糸をつくることのできるのです。用途 婦人服地、下着類、裏地、着尺、夜草地、服飾用や室内装飾用など。

製品 塩瀬、デシン、サテン、クレープルサテン、タフタ、ジョウゼツト、銘仙、お召、チリメン、羽二重、レースなど。特性 ①耐久力を相当に有すること。②伸びちぢみははげしくないこと。③摩擦にはあまり強くないこと。④しわになりにくいこと。⑤おだやかな光沢を有すること。⑥絹に近い手ざわりを有すること。⑦汚れがつきにくいこと。⑧酸、アルカリには強くないこと。

アセテート

アセテートは昭和十六年には織物までつくられたのですが、戦争のため中絶し戦後再び、つくりだされた製品です。

原料 アセテートはパルプ、又はコットン・リントナーに醋酸、無水醋酸を化学させてつくられた化学繊維です。天然の繊維素と合成薬品を化学的に結合したものと考えて半合成繊維と呼んでいます。

用途 婦人子供服、下着 和服、男子服、服飾品、室内裝飾品など。

製品 タフタ、ポプリン、トロピカル、ポーラー、オットマンなど。

特性 ①光沢が優雅であること。②吸湿性が小であること。③保湿性に富むこと。④弾刀性にとみわがよりにくく、型はずれしにくいこと。⑤可塑性をもっていること。⑥出、かびには犯されないこと。

ビニロン

ビニロンは日本で発明された合成繊維で原料は輸入する心配はなく、国内で無量産にある資源から得られるのです。

原料 カーバイト、メタノール、ホルマリン、硫酸、苛性ソーダを原料としてつくられたものでその加工法によつて木綿、絹、毛の天然繊維のいずれの織物の風合いも織り出せるというのです。

用途 被服用としては、服地、裏地、肌着、靴下、手袋、ネクタイ、着尺地など。

製品 サージ、モスリン、トロピカル、メリヤスなど。
特性 ①木綿に似た感觸をもっていること。②摩擦には非常に強いこと。③酸、アルカリに強いこと。④耐熱性が比較的弱いこと。⑤保湿力が大であること。⑥虫やカビには犯されないこと。

ナイロン

ナイロンは、一九三八年アメリカによつて紹介されましたが一九四〇年日本では独自の製法で成功したものです。

原料 石炭 水、空気で そのまゝでは繊維にならないものから化学によつて繊維になる高分子物を合成し、これを細い孔から吹き出させて凝固させ繊維にしたものです。

用途 洋服地、手籠毛糸、和服、靴下、足袋、レインコートなど。

製品 ブロード、オットマン、サージ、クレープ、タフタ、シ

ヤンタン、チユール、ボイルなど。
特性 ①非常に強く弾刀性にとむこと。②摩擦に強いこと。③吸湿性が少ないこと。④酸アルカリに強いこと。⑤耐熱性が比較的弱いこと。⑥汚れがつきにくく洗濯しやすいこと。

繊維の見分け方

繊維の鑑別には、繊維を燃やしてみたり、試験を使つたり、顕微鏡で見する方法などがあります。ここでは、どこでも出来る燃焼の方法をやつてみましょう。布を経(たて)、緯(よこ)の糸にほぐして燃やして見て、燃え方、臭、灰の状態などを観察して判定します。第二表を参照して下さい。

繊維名	燃える状態	におい	結果
レーヨン (人絹・スフ)	バツト速やかに燃える	紙を焼くにおい	白い灰を残す
ベンベルグ	同上	同上	同上
アセテート	熔けるように燃える	すつばいにおい	焰を消すと黒い塊状を残す
ビニロン	近づけると燃え、近づけられぬ	水とけ	塊となり冷えると固くなる
ナイロン	近づけると燃え、近づけられぬ、長時間燃え	水とけ	冷えると固い塊となる

第二表

(外 岡 千 代)

追加一琉球に現存する利用価値のある竹について (八月号)

10 リウキユウチク(ヤンバルタキ)、沖縄本島北部山地に広く天然に分布する沖縄特有の竹で、建築用、垣根用等に使用され、需要量は最も多い。耐乾性も強く適地が広い。生育の適地の天然生竹林の拡張と栽培管理による単位面積当りの生産量の増と良竹の生産を図ることが望ましい。

11 ゴザタケザサ(オモトタケ)石垣、西表の山地に広く天然に分布す、用途はリウキユウチクに似し需要量も多い。耐乾性も強く適地も広い。リウキユウチクと同様に適地の天然生竹林の栽培管理による増産と質の向上が望ましい。

(大 山 保 表)

あとがき

本学部の松田裕一先生が一年間の米国留学を了え去つた七月帰任なさいました。

ミシガン大学において主に養鶏を研究なさいましたが、養鶏王国たるアメリカで実地に見聞された知識は幼稚な沖縄の養鶏事業に大いに役立つこと、期待しています。幸にして今月号から執筆して下さいましたので、沖縄の養鶏と比較して、どんな点を学ぶべきか、将来どうあらねばならないか、此の際大いに研究してみようではありませんか。

発行所 琉球大学農家政学部
 発行人 島 袋 俊 一
 印刷所 沖縄タイムス社